

## 篠原ユキオ

1948年 東大阪市生まれ  
京都教育美術科卒  
京都精華大学名誉教授  
(公社)日本漫画家協会参与  
FECO JAPAN 会長



スポーツの場所で近年カメラによる判定が採用されるようになって観客も選手もモヤモヤが残る事はほぼ無くなった。『三苦の1ミリ』などはその代表例だろう。

ようになるらしいが自分の頭をポンポンと叩いて意思表示というのは何か可愛らしい。相撲をスポーツと言つのに抵抗のある人もあろうがNHKのニュースでもスポーツの時間に流れているからスポーツという感覚で見ると、足元

とともに体の生き死にが判定の中心となるがいずれは全てをA-が判定するということになるとそれはそれでちよつとモヤモヤする。

白黒のつけ方

以前は街中を歩いていて道を尋ねられる事がよくあったが最近はそのうことは殆ど無い。クルマには必ず置いていた大きな道路地図帳も見なくなった。

スマホ片手の外国人観光客が迷う事無く地下鉄やバスを乗り降りしているのを見ると本当に便利な時代にな

## ツボ検索

つたものだと思う。

そついえば昔子どもが学校で提出する個人票には学校までの地図を描き込むスペースがあった。

今は個々に出力した地図を貼付けるようになっているらしい。

将来はQRコードになりそうだな。



## 馬を駆る

流鏑馬（やぶさめ）は京都では下鴨神社が有名だ。近年、流鏑馬はちょっとしたブームらしくてそれぞれ押しの射手を追っかけるファンもいる。確かにその装束も含めて疾走する姿はとても勇壮でカッコいい。

馬を走らせるという事では伏見区の藤ノ森神社にもよく似た神事がある。駈馬（かけうま）と言われ、こちらは矢を射る事はしないが様々な姿勢で馬を走らせ、それらは戦場での馬上の動きにつながっているという。

そしてここは勝運の神社として関西の競馬ファンにはよく知られている。そう言えば京阪沿線にはこの二つの他に淀の競馬場があり、京阪電車の相性『おけいはん』は『お競はん』ではないかと思ったりするのだが、これはちょっと強引かな。





## 地縛霊

夏は各地にお化け屋敷ができるし怪談話も多くなる。

漫画やアニメの世界では妖怪がアイドル並みの人気者になったりしている。

私が地縛霊とか背後霊とかいうものを知ったのは少年マガジンに連載されたつのだじろう氏の『うしろの百太郎』だった。連載開始が1973年ということなのでもう50年以上前である。

人には見えていないがこの世界と重なってもう一つ別の世界がある、という考えがある。

鎌倉時代の国宝『餓鬼草紙』には人間のそばにいてその排泄物を口にいれようと待ち構えている何人もの餓鬼が描かれているのは有名だ。

私自身は霊感が強い方ではないのでそんな得体の知れぬものを見たことはないのだが亡くなった妻は若い頃から霊感が強くて時折、霊を感じるものがあつたし見えると良く言った。Aは人間の積み上げてきた膨大な知識やデータを吸収して答えを出すのだが、果たして霊感はどうなんだろう。

コレばかりは、語ることはできても感じるのは無理だろうな。

## 目玉オヤジの居場所



この目玉親父のキャラクターには愛着がある。大学2回生の春、産経新聞社が募集した1コマ漫画のコンクールで授賞し、その時に副賞として鬼太郎の人形を頂いた。30センチほどのその人形の胸を押すと「ゲ、ゲ、ゲゲのゲ〜♪」と歌い出す、当時としてはなかなか新しい仕掛け玩具で金色の前髪をあげると左目には大きな穴があいていてそこに目玉オヤジの人形がすっぽりはまっているいささか不気味な人形だった。それは結婚後も書斎の本棚に長い間飾っていたが、二度目の引っ越しの時に目玉オヤジだけが行方不明になった。片目が空洞のままの鬼太郎人形はその後、劣化もあって今はもう残っていないが、時々あの目玉オヤジは今頃どこに居るのだろうかと思うことがある。